

横浜市感染症発生動向調査報告 3月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの報告数が、第10週で流行警報解除基準値(10.00)を下回りました。
- 性的接触によるA型肝炎の報告が増えています。

◇ 全数把握の対象

〈3月期に報告された全数把握疾患〉

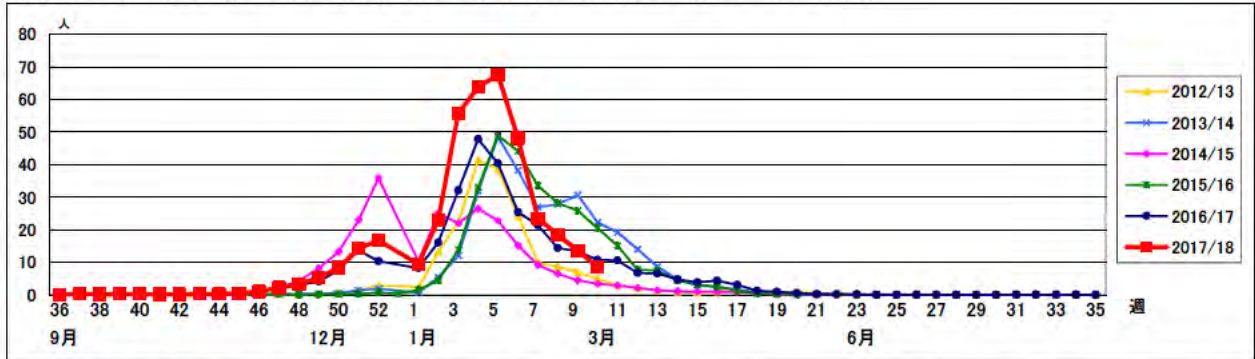
腸管出血性大腸菌感染症	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
A型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	2件
レジオネラ症	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
急性脳炎	2件	梅毒	10件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	—	—

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が1件、O8の無症状病原体保有者の報告が1件ありました。
- 2 A型肝炎: 同性間の性的接触による報告が4件ありました。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型の報告が2件あり、感染経路等不明です。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 2件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 5 急性脳炎: 乳幼児の報告が2件ありました。いずれも病原体不明です。
- 6 クロイツフェルト・ヤコブ病: 家族性CJDの報告が1件ありました。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が1件あり、感染経路等不明でした。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者の報告が1件、その他の報告が1件あり、いずれも男性でした。感染経路はいずれも性的接触で、同性間が1件、異性間が1件でした。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70歳代の報告が1件あり、ワクチン接種歴不明でした。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳以上の報告が5件あり、いずれもワクチン接種歴不明でした。
- 11 梅毒: 10件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒 I 期4件、早期顕症梅毒 II 期3件)がありました。9件は国内での感染で、1件は感染地域不明です。男性8件、女性2件でした。感染経路は、異性間の性的接触が6件、同性間の性的接触が2件、詳細不詳の性的接触が2件です。

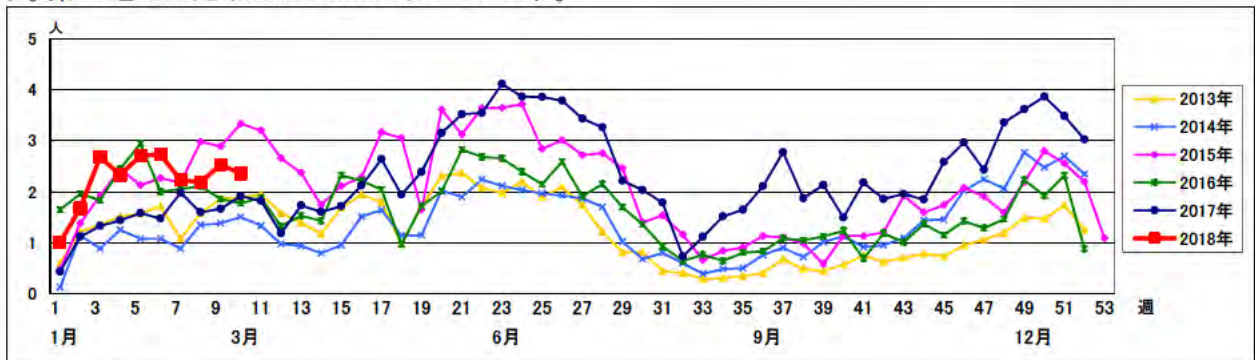
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第 8週	2月19日～2月25日
第 9週	2月26日～3月 4日
第10週	3月 5日～3月11日

- 1 インフルエンザ:2017年第46週で1.01にて流行開始し、第51週で定点あたり14.19にて流行注意報発令基準値(10.00)を超え、2018年第3週で55.76となり、警報発令基準値(30.00)を超えました。第5週の67.58をピークとして漸減し、第10週では8.60となり、警報解除基準値(10.00)を下回りました。第1週以降、迅速検査キットにてB型が多く、例年に比べてB型の流行が早くなっています。



- 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第10週では定点あたり2.36となっています。



3 性感染症(2月)

性器クラミジア感染症	男性:17件	女性:22件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性:6件
尖圭コンジローマ	男性: 6件	女性: 3件	淋菌感染症	男性:10件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第8週	第9週	第10週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.75
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.25	0.75	0.00

5 基幹定点月報(2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点49件、内科定点18件、眼科定点3件、基幹定点6件で、定点外医療機関からは1件でした。

4月9日現在、表に示した各種ウイルスの分離株40例と遺伝子19例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(3月)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状 上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	イン フル エン ザ 脳 症	そ の 他
インフルエンザ AH1N1pdm09型			1			
インフルエンザ AH3N2型	2	1	19			
インフルエンザ B型山形系統		1	15		1	
パラインフルエンザ 1型		1				
RS		2		1		
ヒトコロナ*2		1				
ヒトメタニューモ		9				
ライノ		4				1
合計	2	2 17	35	1	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:HCov-229E or NL63、HCov-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

3月の「菌株同定」は基幹定点依頼のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌が8件、サルモネラ属菌が4件、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌が1件、赤痢菌が1件、グラム陰性菌の同定が1件、肺炎球菌が1件となっており、非定点からの依頼では、バイコマイシン耐性腸球菌が1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌が2件となり、保健所からの依頼は、結核菌が24件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌が2件、腸管出血性大腸菌が2件、髄膜炎菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌1件でした。「分離同定」の検査は、非定点からレプトスピラの依頼がありPCR陰性でした。「小児科サーベイランス」ではA群溶血性レンサ球菌が2件検出しました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(3月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	1	TSST-1	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	8	<i>Enterobacter cloacae</i> , <i>Citrobacter freundii</i> , <i>Klebsiella pneumoniae</i> , <i>Klebsiella oxytoca</i>	
	基幹定点 サルモネラ属菌	4	<i>Salmonella</i> O4群、O9群、O3,10群	
	赤痢菌	1	<i>Shigella flexneri</i> 2a	
	グラム陰性菌同定	1	<i>Lactobacillus rhamnosus</i> (血液由来)	
	肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i>	
	非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i>
		バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecium vanA</i> 保有
	保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> , <i>Klebsiella oxytoca</i>
		腸管出血性大腸菌	2	O157:H7 VT1VT2、O104:H10 VT2
髄膜炎菌		2	<i>Neisseria meningitidis</i> 血清群B	
劇症型溶血性レンサ球菌		1	A群T1型	
結核菌		24		
分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
非定点	レプトスピラ	血液	1	レプトスピラPCR陰性
		尿	1	レプトスピラPCR陰性
小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	2	T12型、TB3264型	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】